

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 学習指導と進路指導の充実を図る。 個に応じた指導による基礎・基本の定着と確かな学力の増進に努める。	① 年間を通して校内公開授業とし、授業研究を充実させて授業改善を促進する。また、全教科共通のテーマで研究協議会を持ち、協議内容を全職員で共有する。	教務課 各教科	他の教員の授業を参観した回数が年間5回以上の教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 教職員アンケート 5回以上の参観 9月 31.7% 3月末 88.9%	年間を通じて相互の参観を積極的に実施している教員は少数にとどまっていたが、「言語活動の充実」を校内の共通課題として取り組み、またICTの活用が普及するとともに授業方法についてお互いに実践を通じて研究しあうなどの取り組みがなされるようになり、学年末に近づくにつれて互見授業の頻度も高くなった。来年度も引き続き互見授業の奨励を提唱していく。
	② ICT機器を活用した、より効率的で効果的な授業を実践する。	教務課 情報課 各教科	ICT機器を活用した授業を実践した教員の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	A 教職員アンケート 3回以上の実践者が 9月 46.5% 3月末 72.2%	県からもICT機器の充実を目指してプロジェクトや書画カメラも複数台配備され、本校でも情報課主催で機器の使用研修会の取り組みもおこなった。その結果、ICT活用の授業を試みる職員が大幅に増えた。校内での無線LANが制限されている現状ではあるが、より効果的な方法を知るためにも外部の専門家による研修や、他校での実践研究を積極的に学んでいきたい。
	③ 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、家庭学習時間を増加させる。	教務課 各学年 各教科	課題の提出率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C 生徒アンケート 9月 73.6% 1月末 72.1%	英数国を中心とした週末課題の提出については生徒によりムラがあり、教科と学年団が連携して指導を強化する必要がある。一方、進路目標が定まっている生徒は課題の取り組みも積極的であり、家庭学習の時間も確保されている。次年度は早期の進路目標設定と家庭学習の必要性を強調していきたい。
	④ キャリア教育の充実とともに、個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう教育活動を行う。	進路指導課 各学年	本校でのキャリア教育が意義あるものとなっていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 生徒アンケート 9月 83.7% 1月末 82.8%	3年間の進路指導シラバスに沿ってキャリア教育を実践している。今年度は1年生で職業インタビュー、2年生でインターンシップ、大学見学会、模擬授業、志望理由書作成、3年生ではPTAや同窓生の協力を得て面接講座を導入するなどさらに内容を充実させた。次年度はこれらの活動を時期等も含めて再度検証し生徒の進路実現に役立てたい。
学校関係者評価委員会の評価	外国語コースが今年度で姿を消すということは大変残念であるし、時代のニーズの面から考えてももったいない。外国語を十分学べる教育課程を残してあるようだが、運用をしっかりとやっていくべきだ。ICT機器利用の実践奨励がなされており生徒の興味関心を引きつける工夫が感じられる。機器の使用に関しては外部の有識者も活用してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	外国語コースの後継として普通コースにグローバルコースを設け、外国語の授業を大幅に増やすとともに会話に力を入れた授業や大学との連携も行ってきた。また、中国語選択者も増加しており、外国語コースで培ったノウハウをしっかりと継承させたい。ICT機器については、外部からの有識者を招くとともに、どのようにわかりやすい授業につながるかを調べていきたい。				
2 基本的な生活習慣や倫理観を確立し、豊かな人間性と社会性を育成する。 時間厳守、ルール遵守、言葉遣いや礼儀作法、服装容儀の指導を推進する。	① 家庭との連携・協力を図りながら、服装、頭髪、化粧などの身だしなみ指導を全職員で行う。	生徒課 各学年	服装容儀について生徒心得を守っていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A 生徒アンケート 9月 92.4% 1月末 91.4%	生徒課と各学年団が協力・指導した結果、多くの生徒は頭髪服装容儀を守ろうとする心がけができてきた。入学時から集団の中で当然守るべき規範を持たない生徒も見られたが、全職員の共通理解のもと、登校指導や学年集会を頻繁に実施し、非行・怠学に陥らないよう軽微なうちにその芽を摘み取ることができた。ただし、学年によって基準がブレないように学年間の連携を強化する必要も感じられる。
	② 全教職員で協力し、遅刻の減少を目指す。	生徒課 各学年	年間の遅刻者の延べ人数が A 430人以下である B 480人以下である C 530人未満である D 530人以上である	B 今年度 479件 (昨年531件)	学校全体で遅刻数減少に取り組んで3年が経過した。全職員の共通理解のもと精力的に取り組み、今年度も成果を見た。特定の生徒の度重なる遅刻の指導を強化するという課題も見えてきた。生徒職員そして保護者が一丸となって取り組める課題でもあり、今後も継続して一層の減少に努めたい。
	③ 構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人間としての在り方・生き方の自覚を深める教育を実施する。	教育相談室 各学年 各教科	構成的グループエンカウンターやアサーション等を通して、人と人との接し方について理解し、人間関係づくりに役だったと考える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C 生徒アンケート 9月 71.3% 1月末 67.2%	4月の年度当初に実施したクラスがほとんどで、その後継続的な取り組みはなかなかできなかった。ただし、3年生では学年の終わりに実施し大変有意義な成果を得たクラスもあった。ことさらに関係作りとして意識はしていないが、LHや総合的な学習の中で人間としてのあり方・生き方の自覚は深まっている。実際学校不適應や不登校の生徒は確実に減少しており、取り組みの効果は十分に認められる。LHの年間計画に定期的に入れることは困難だが、来年度以降も短い活動でも回数を増やしていきたい。
	④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開する。	生徒課 各学年	生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数 A 25回以上である B 20回以上である C 15回以上である D 15回未満である	A 大きな取り組みや継続した取り組みが、 9月末集計 13回 1月末集計 27回	夏休みにサマーボランティア体験として近隣7カ所の施設や保育所を訪れたのを初めとして、芸術コースによる福祉施設でのコンサートや子供交流センターや図書館における似顔絵イベント、JRCによる継続的な施設・保育所訪問や年末の高齢者交通安全啓発事業として、高齢者への交通安全の呼びかけもおこなった。全てを換算すると優に100回を超える。さまざまな活動を通して生徒は地域に貢献するとともに奉仕の精神を学んだ。

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
	⑤ 「学校版環境ISO」の取得校にふさわしいエコ活動を展開し、CO ₂ 排出の削減等を指すとともに、環境保護の精神を培う。	保健環境課 各学年	エコ活動に積極的に取り組んだと答える生徒・教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C 9月末アンケート 生徒75.5%・職員100% 11月末アンケート 生徒78%・職員98% 全体で79.9%	生徒の意識は学年が進むごと、また回を重ねるごとに向上しているが、日常的には意識の低い生徒への対応が多くなっている。紙のリサイクルやゴミの分別、節電・節水等のエコ活動に積極的に取り組むためには生徒職員ともに意識改革が必要である。まずは職員が意識向上に努め職員全体で生徒への指導を行い生徒の意識と行動の改善につなげたい。
学校関係者評価委員会の評価	美術部の似顔絵ボランティアや音楽部のボランティア交流は地域でも楽しみにしている。生徒会やJRCが中心となって年間100回を超える実践を行っていることは大変評価できる。それに比べ全体の生徒には実践しているという実感が薄いようだ。些細なことでも十分にボランティアとなることを理解させ、自己肯定感につなげてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	いろいろな折にボランティアについて話す機会を持ち、日々の生活の中で十分に行っている可能性があることも理解させ、進んで実践できるように意識させたい。同じようにエコ活動についても日常的でほんの些細なことがエコ活動であり、目に見える大きな取組だけが環境保護だという観点を変えていきたい。				
3 時代を生きぬく、意欲的で活力のある人間の育成を図る。 部活動や生徒会活動の活性化、健やかでたくましい心と体の育成に努める。	① 1年生には全年度活動に参加するように促すなど、部活動を活性化させる。	生徒課 各学年	部活動に加入し、活動している生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	B 生徒課生徒会の調査で 9月 87.0% 11月末 86.1%	今年度の1年生は昨年度と比べて4月の時点で入部しなかった生徒が多くいた。特に女子生徒の未加入者の割合が高く、女子生徒の入りやすい部活動の環境を整える必要性を感じた。ただし、今年は部活動をやめる生徒が少なく、またやめた生徒も新たにほかの部へ加入するものがほとんどで、年度末でも加入率はほとんど変わらなかった。部の顧問だけでなく担任や生徒課でも部をやめようとする生徒の面談や相談に乗った効果もでたようだ。
	② 体力測定記録の更新を意識づけ、全学年を通して体力の向上を目指す。	体育科	5月、1月のタイムを比較して、向上したものの割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	B 11月体育科集計で 男子 75.9% 女子 74.5% 全体 75.1%	1、2年そして男女とも全て記録向上者は70%を上回った。また、昨年度と比較しても向上者が増加した。授業も生徒が積極的に取り組み、早い時期から昨年を上回ってくれるものと確信できた。特に女子のがんばりが目立った。(昨年度、男子75.2%、女子70.9%) 来年度も同様な目標を掲げて取り組むと同時に一層計画的に生徒の体力向上を意識し、意欲的に運動に取り組む姿勢を育みたい。
	③ 生徒一人ひとりが充実感・達成感の得られる生徒会行事を企画・運営する。	生徒課 各学年	行事終了後のアンケート調査で、充実感・達成感があったと答える生徒の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A 各行事後に調査したアンケート結果で 9月 89.6% 3月末 86.4%	前期に行われた行事後の調査では90%近くが充実感・達成感を得られたと回答しており、有意義な取り組みであったといえる。生徒の役割分担を細かくし多くの生徒に声をかけ行事に参加できるようにしたことで生徒全員の満足度につながったといえよう。3月に行われたスポーツ大会でも86%強の充実感・達成感をもって締めくくった。自己肯定感と向上心を持って次年度に臨んでほしい。
学校関係者評価委員会の評価	さまざまな学校行事ではPTAをはじめとして、地域・同窓会・近隣の大学が参加し大変素晴らしいものとなっている。また、野球部をはじめとして立派な挨拶がなされ訪問者は感動している。学校の評価以上に地域は評価している。また、勉強面だけでなく体力面の教科にも力を入れていることは大変素晴らしいことだ。社会に出るとまずは体力であり、今後も取り組みを継続してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	学校を支えてくださる皆さんへの感謝の気持ちを忘れずにさまざまな行事に一層の創意工夫を取り入れたい。来年度はいよいよ創立30周年の年となり、学校行事でも一層の思いを込めて企画運営を行ってほしい。部活動ではライフル部と美術部が文武の核となって立派な成績を残しているが、恵まれた設備環境を十分に生かして他の部も精力的に活動できるよう部活動の日を設ける。				
4 生徒・保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりに努める。 広報活動の充実や校種間交流、地域と連携した取り組みを積極的に行う。	① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	各種の交流活動が活発であり、その広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	B 保護者アンケート 7月 90.8% 12月 87.6%	数多くの行事やイベントをPTAをはじめとして、同窓会や地域の方々のご協力をいただき所期の成果を得られた。関係各位のご協力に大変感謝している。アートフェスティバル、似顔絵や訪問コンサートなどの地域及び小中学校との交流も予定通り行い、地域との結びつきも実感できた。今後はリニューアルしたホームページ上で活動の様子を今まで以上にタイムリーにそして詳細に報告するよう心掛ける。
	② ホームページを刷新し、更新を定期的に行い、地域や小中学校等との交流や学校行事など、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。	総務課 各コース	ホームページを通して学校の交流活動や教育活動に関する情報の発信が適切に行われ、わかりやすいと答える保護者の割合が A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C 12月保護者アンケート 74.4% (昨年度69.2%)	当初は夏季休業中にはリニューアルする予定であったが、ホームページを構成するソフトの不具合で秋まで大幅に時期が遅れてしまった。今回使用したソフトでは各部署がそれぞれ作成した記事を自らアップできるため学校の情報を素早く伝えることが可能となった。全面改定し、前年からの切り替えにまた若干の時間と手直しが必要だが、随時レベルアップに尽力したい。
	③ 保護者の携帯電話へのメール配信を行い、PTAとの連携を深め、本校の教育活動の円滑化と活性化を図る。	総務課 各コース	メールを登録している保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C メール配信の登録を行っている保護者が 9月 72.1% 11月末 75.3%	保護者への登録依頼を何度も行った結果、11月末によろやく75%を上回るようになった。4月以降現在までのべ77回のメール配信を行った。登録されている保護者の方々からは学校の予定や取り組みがよくわかると概ね好評をいただいている。当然、教育活動の円滑化と活性化を促進するには非常に有効な手段であり、来年度に向けて一層の働きかけを行い登録率を高めたい。
学校関係者評価委員会の評価	いろんな特色のある行事を行っており、知っている者にとっては楽しみな学校だが、若干町中から離れていることもあり、足を運んで下さる方は近隣の方や学校関係者に限られてしまう。辰巳アートフェスティバルなど、どんどん外の人混みに出て素晴らしい辰巳丘高校をPRしてほしい。30周年に向けて一層の取り組みを期待している。				
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策	30周年記念事業にむけて同窓会とタイアップして、いろいろな方向から学校のPR活動を繰り広げたい。この11月にホームページの全面刷新が行われ、それ以降タイムリーな記事の提供等を心がけてきた。しかし、まだまだ、新しい発信の仕方や活用法を求めて模索したい。保護者向けのメール配信は来年度は90%を目指して登録を呼びかけていきたい。				

